

10. 基本的な課題整理までの流れ

基本的な課題を整理するにあたり、まず、以下の項目から現況を整理し、次にまちづくりの課題を整理します。そして、まちづくりの課題から、主要な5つの「基本的な課題」に集約化し、本計画では、これらの課題解消に努めます。

分類		内容
日野町を取り巻く現状	社会動向	近年の計画策定に関する社会情勢を整理し、今後のまちのあり方を検討するための社会動向を設定します。
	統計データ等による日野町の現状	都市計画基礎調査をはじめとした統計データ等を活用し、まちに関する現状を明らかにします。
	上位関連計画による日野町の将来への方針	上位計画である「第6次日野町総合計画」等を整理し、本町の将来の方向性を明らかにします。
町民意向 「住民意識調査 高校生アンケート調査」		町民意向を踏まえた計画とするため、住民・高校生アンケート調査結果による将来の方向性を明らかにします。
現行マスターplanの検証		今後も維持・充実すべきまちづくりの考え方を明らかにします。

都市計画分野の項目	まちづくりの課題
【土地利用】	○市街化区域内の土地利用の適正化 ○農村集落の維持 等
【都市施設】	○道路ネットワークの充実 ○狭隘道路の改善 等
【市街地整備】	○公民連携の開発促進 等
【景観形成】	○歴史的建築物の保全・活用 等
【都市防災・防犯】	○激甚化する水害への対応 等

基本的な課題

- 課題1 良好な住環境の維持・向上
- 課題2 自然・歴史環境の保全・活用
- 課題3 地域特性を活かした産業振興
- 課題4 交通ネットワークの適切確保
- 課題5 防災・防犯対策の推進

基本的な課題整理までの流れ

11. まちづくりの課題整理

都市計画 分野の項目	日野町を取り巻く現状			住民意識調査 ・高校生アンケート調査 (第6次日野町総合計画)	現行日野町 都市計画マスタープラン の検証	
	社会動向	日野町の現状	上位関連計画による 日野町の将来への方針			
土地利用	住宅	<ul style="list-style-type: none"> ○SDGs(世界の共通目標) <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な開発目標 ・17のゴールと169のターゲットで構成 	<ul style="list-style-type: none"> ○第一種住居地域では、工場がみられます。また、第二種中高層住居専用地域では、工場及び作業所併用住宅が点在しています。 ○宅地としての土地利用の割合は10年間で増加傾向にありますが、田・畑は減少傾向にあります。 ○市街化調整区域では、約9割が自然的利用となっています。 ○市街化調整区域では農用地利用が多く行われています。 ○住宅用地として農地転用を行う権利者が多くなっています。 ○本町の観光客の特徴として、日帰りの観光客が9割を占めています。 ○市街化区域及びその周辺にも埋蔵文化財包蔵地が数多く分布しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○滋賀県都市計画基本方針 <ul style="list-style-type: none"> 【都市の将来像】 ・住む、働く、憩うといった機能が集積した多様な拠点において多様な人々との出会い・交流を通じた豊かな生活を実現できる社会 ・成長性のある企業立地の促進と、先端技術の活用や、新たなサービスや製品の普及による便利で快適に生活できる社会 ・拠点を結ぶ公共交通網及び拠点までの移動手段により安心して移動できる社会 ・自然災害に対応した都市で安全に暮らせる社会 ・歴史・文化・風土に根ざした地域の資源が保全、継承、活用され、自然と共生する文化が育まれる社会 ○近江八幡八日市都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 <ul style="list-style-type: none"> 【基本理念】 ・都市機能の集約化を取り入れたまちづくり ・中心核の形成による自立性の高いまちづくり ・元気な産業を育むまちづくり ・良好な住環境を育むまちづくり ・豊かな自然、歴史、文化を強調したまちづくり ・安全・安心なまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○買い物の利便性を向上させることができます。 ○産業を活性化させることが望まれています。 ○地元企業の発展と地域経済の振興は、定着度が高く、優先度も高い項目となっています。 ○魅力ある観光、来訪者との交流(田舎体験を含む)は、定着度が高く、優先度も高い項目となっています。 ○日野野菜のブランド化、付加価値の高い特産品の生産は、定着度が低いものの優先度は高い項目となっています。 ○農山集落の特性を活かした土地利用は、定着度が高く、優先度も高い項目となっています。 ○娯楽や余暇を楽しめる空間創出が望まれています。 ○住宅支援に対する施策が望まれています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市中心市街地への居住の推進 ○良好な居住環境の形成 ○市街化調整区域における地区計画制度の活用による継続的な土地の活用及び既存集落の維持 ○開発許可制度の弾力的な運用の検討 ○定住促進を図ることのできる田園風景と調和したうるおいのある居住環境の実現 ○工業団地の造成と企業立地の取り組み ○観光の振興を図るために、史跡、歴史的な町並み等の文化資産の整備・活用 ○わかりやすい標識、案内看板等の整備・情報発信機能の強化検討 ○農地保全のための優良農地の確保 ○農地の現状把握かつ実情にあった計画・見直し検討
	商業	<ul style="list-style-type: none"> ○IoT社会 <ul style="list-style-type: none"> ・モノとインターネットを連結 				
	産業	<ul style="list-style-type: none"> ○シェアリングエコノミー <ul style="list-style-type: none"> ・モノ・サービス・場所等を共有し、ソーシャルメディアを活用 ・個人間で貸借・売買・提供 				
	農地	<ul style="list-style-type: none"> ○Society5.0 <ul style="list-style-type: none"> ・サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステム 				
	農村地					
	森林	<ul style="list-style-type: none"> ○スマートシティ <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーや交通網等のインフラを効率化し、生活やサービスの質を向上させた人が住みやすい都市・行政や企業が収集したデータをAI等で分析 				
都市施設	道路	<ul style="list-style-type: none"> ○県決定の都市計画道路は、ほぼ未整備となっています。 ○山王公園は都市計画決定がされているものの、整備されていません。しかし、他の都市計画公園は、整備率が90%を超えていました。 ○公共下水道の処理区域の普及率は約8割、農村下水道の処理区域の普及率は約2割となっています。 ○市街化調整区域では、公共交通空白地地域がみられます。 ○近江鉄道バスの乗降客数は増加傾向にありますが、コミュニティバス(町営バス)の乗降客数は減少傾向となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○住民が活用できるスポーツ施設の立地が望まれています。 ○公園や下水道が整備された心地よい生活環境は、定着度が高く、優先度も高い項目となっています。 ○交通安全は、定着度が高く、優先度も高い項目となっています。 ○公共交通の改善が望まれています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歩行者・運転者双方にとって安全で快適な生活道路の整備の推進 ○公共交通網の整備による各地域との連携強化かつ利用者の拡大 ○バス交通の利用促進を目指した利便性の向上に向けた協議 ○水質保全に努めるための適切かつ継続的な施設の点検・管理 ○下水道未整備地域の下水道整備 ○安全な通行を確保した、歩道・自転車専用道の整備 		
	交通	<ul style="list-style-type: none"> ○ニューノーマル <ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活様式 				
	公園・緑地	<ul style="list-style-type: none"> ○6次産業化 <ul style="list-style-type: none"> ・1次産業、2次産業、3次産業の総合的かつ一体的な推進 				
	供給処理施設	<ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村の地域資源を活用した新たな付加価値 ○防災・減災 <ul style="list-style-type: none"> ・防災は災害を未然に防ぐための備え ・減災は災害が発生した際の災害を最小に抑えるための備え ○Mass <ul style="list-style-type: none"> ・ITによる公共交通のシームレス化 	<ul style="list-style-type: none"> ○市街地整備事業としては、3地区の土地区画整理事業を行っています。 ○市街化区域内で地区計画が行われています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市街地の特性を活かした土地利用は、定着度が高く、優先度も高い項目となっています。 		
	市街地整備					
景観形成		<ul style="list-style-type: none"> ○国道307号は、県条例に基づいた沿道景観形成地区に指定されており、周辺環境に即した沿道整備が求められています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる ・まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる ・くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○農村の風景や、町並みの景観保全は、定着度が高く、優先度も高い項目となっています。 ○高い環境保全意識、住民による自然環境をまもる活動は、定着度が高く、優先度も高い項目となっています。 ○文化財・史跡・歴史的建造物・歴史的景観等の保全は、定着度が高く、優先度も高い項目となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動団体との連携による歴史的な町並みの景観保全 ○国道307号沿道の県条例に基づいた景観形成指導 	
		<ul style="list-style-type: none"> ○市街地整備2.0 <ul style="list-style-type: none"> ・公民連携でビジョンの共有 ・エリアの価値と持続可能を高める更新 	<ul style="list-style-type: none"> ○本町では、大雨等の浸水被害はあるものの、平成以降の家屋倒壊等の統計資料はありません。 ○最大規模の浸水想定区域(日野川流域)において、10m以上浸水すると予測されるエリアもあることから、甚大化する風水害について、長期的な視点で対策を行っていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○防犯対策は、定着度が高く、優先度も高い項目となっています。 ○消防・防災・防犯のための仕組みは、定着度が高く、優先度も高い項目となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○浸水が想定される地域に対しての重点的な整備 ○一級河川の改良整備や堆積土砂の除去の促進、小規模な河川の水害対策への取り組み ○地震に強い施設の整備 ○「日野町地震防災マップ」に基づいた災害対策の啓発 ○空き家の有効活用 ○防犯灯の設置や地域のきずなを強めることによる、事件・事故の未然防止 	

まちづくりの課題

- 市街化区域内の土地利用の適正化
- 市街化調整区域内の適正化
- 農村集落地の維持
- 生活利便施設の充実
- 地元商店街の維持
- 立地企業の育成と産業振興
- 農用地の保全・活用
- 山林の保全・活用
- 観光・レクリエーション施設の充実
- 道路ネットワークの充実
- 幹線道路及び生活道路の交通安全施設の充実
- 狭隘道路の改善
- 公共交通空白地の改善
- 慢性的な交通渋滞の解消
- 一人あたりの都市公園面積の充実
- 下水道の維持・充実
- 市街化区域内の未利用地の活用
- 公民連携の開発促進
- 歴史的な町並みに配慮した景観保全
- 歴史的建築物の保全・活用
- 文化財の保全
- 景観形成の促進
- 農村風景の維持・保全
- 激甚化する水害への対応
- 公共施設等の耐震化促進
- 空き家の解消
- 地域防災力の向上

12. 基本的な課題の集約



13. 基本的な課題

(1) 良好な住環境の維持・向上

市街化区域については、日野商人街道を中心に市街地が形成され、町屋等が軒を連ねる歴史的な町並みが広がり、その周辺では低層の住宅地が形成されています。また、日野地区の市街化区域(松尾、河原、村井、大窪、中道、いせの)では、土地区画整理事業による計画的な市街地が形成されています。市街化調整区域については、農地が広がり、農村部では、農山村住宅と自然が調和した農村集落、さらに、町の郊外部では、都市計画法の線引き制度前に開発された湖南サンライズ等の住宅地が形成されています。

こういった状況の中で、市街化区域の住宅地においては、生活道路が十分整備されておらず、狭あいな道路もみられるとともに、住工の混在地や公園・緑地等が不足する住宅地もみられます。また、市街化調整区域における農村部や郊外部では、生活利便施設等の不足もみられます。

そのため、市街化区域においては、中心市街地における歴史的な町並みを保全・活用するとともに、狭あいな道路の改善、住工混在の立地改善を推進し、暮らしやすい環境整備を整え、定住促進を進める必要があります。また、行政・民間・町民が連携し、未利用地の活用を図るとともに、未利用が続く地区については、原因を検証しながら市街化区域から市街化調整区域へ変更する逆線引きも視野に入れ、より使いやすい地区にシフトしていくことも検討する必要があります。市街化調整区域においては、農村集落を保全・活用しながら、生活利便施設の充実等、これら地域の実情に即した良好な住環境の維持・向上を図る必要があります。また、市街化区域、市街化調整区域を問わず、本町全域で空き家・空き地等の問題が顕在化してきており、空き家バンク等を通じて、これらの利活用を推進していくとともに、危険な空き家等については除却を後押しできるような方策を検討していく必要があります。

(2) 自然・歴史環境の保全・活用

本町は、琵琶湖まで至る日野川と佐久良川が流れるとともに、農地や町土の約6割を占める山林等の豊かな自然に囲まれており、そこで生活する町民に安らぎと心地よい空間を提供するとのできる自然資源となっています。また、室町時代に蒲生氏によって基盤が築かれた本町は、江戸時代に入ると、近江日野商人によって歴史的な町並みが形成され、それらを中心に歴史資源が点在しています。

こういった状況の中で、日野商人街道等の歴史的な町並みが現存する地域では、電柱や側溝等との調和が乏しく、情緒あふれた町並みとは言い難い状況です。

そのため、本町の優れた自然環境に配慮するとともに、歴史的建築物や文化財等の保全を図り、歴史的な町並み等の景観形成に努め、後世に町並みを継承していく必要があります。

(3) 地域特性を活かした産業振興

本町は、国道307号沿いの工業用地に工場が立地し、主産業として多くの雇用を創出しているとともに、近年では、大型商業施設が立地する等、国道307号沿いにおける生活利便施設が充実しています。観光においては、日野まちかど感應館・新館を整備する等、観光客の誘致に取組んでいます。農業においては、原産日野菜をはじめとする特産品の品質向上と地域ブランド化に向けて、近江日野産日野菜という名称で地理的表示認証(GI)取得に取組んでいます。

こういった状況の中で、さらなる企業を誘致できる工場用地の不足、幹線道路沿いの商業施設の立地による既存の中心市街地にある商店街の衰退、宿泊観光客の伸び悩み、後継者不足等から農地荒廃が進行し、経営耕地面積の減少がみられます。

そのため、立地企業及び新規企業誘致に向けた新たな工業用地の創出が必要であるとともに、町民ニーズに対応し、地域に根付いた利便性の高い商業機能を整える必要があります。

また、仕事と観光を組み合わせたワーケーションにより、居住地域の近隣にある観光資源や歴史的な町並みを活かした観光振興を図るとともに、優良農地を活用した地域ブランドの振興を図り、観光客の受入体制を整備していく必要があります。

(4) 交通ネットワークの適切確保

本町は、南北方向に国道307号、東西方向に国道477号を主要な軸として形成しており、この軸と県道土山蒲生近江八幡線等、その他主要な生活道路によって道路ネットワークを形成しています。これらの道路ネットワークにおいて、路線バスやコミュニティバスが運行され、鉄道とともに公共交通ネットワークを形成し、町民の移動手段として利用されています。

こういった状況の中で、工業団地の付近では、交通渋滞が頻繁に発生するとともに、農村集落では、公共交通空白地が分布する等、交通利便性の低い状況となっています。

そのため、町民と協力しながら関係機関と連携して交通結節点における機能の強化、デジタル技術の活用を含めたスマート交通を推進するために、町民ニーズに対応したバス路線網の見直しや再構築を行い、持続可能な交通ネットワーク整備を進めていく必要があります。

(5) 防災・防犯対策の推進

本町は、これまで大きな災害履歴がなく、災害の少ない町となっています。また、町内の事故や犯罪における交通事故件数及び犯罪認知件数は、滋賀県内でも比較的少ないものとなっています。

こういった状況の中で、近年、我が国では、日本各地で自然災害が激甚化・頻発化しており、本町においても大規模な災害が起きないとも言えない状況となっています。また、人口減少社会の中で空き家の増加が懸念されているとともに、子どもたちの通学路において狭あいな道路が存在し、交通安全上、危険な箇所も存在します。

そのため、災害リスクに応じたインフラの整備・改善を進めるとともに、町民意識の醸成を図りながら、防災組織の形成や防災訓練等の実施により地域防災力を向上させ、防災・減災の取組を図る必要があります。また、空き家の解消や交通安全施設の充実を図りながら、町民が安全・安心に暮らすことができる環境を整備していく必要があります。